

- 1 主題名 長所と短所 A-(4) 個性の伸長
- 2 教材名 それじゃ、ダメじゃん (日文)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目A-(4)は、主として自分自身に関することの中で、「自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばす」ことをねらいとしている。児童の個性を尊重し、最大限に伸ばしていくことができるよう支援することは、これからの教育の重要な課題の一つである。そのためには、児童一人一人がまず自分を深く見つめ、長所を自覚し、さらに積極的に長所を伸ばそうとする態度を育てる必要がある。同時に自分の短所などもしっかりと見極め、短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ、それを課題として改善していく努力も重ねつつ、自分自身を伸ばしていくことが大切であると考え。

(2) 主題に関わる児童の実態 (*人)

(平成*年*月*日実施)

1	自分には、よいところがあると思う。 ・そう思う *人 ・どちらかといえばそう思う *人 ・どちらかといえばそう思わない *人 ・そう思わない *人
2	自分には、直さなくてはならないところがあると思う。 ・そう思う *人 ・どちらかといえばそう思う *人 ・どちらかといえばそう思わない *人 ・そう思わない *人
3	自分の直さなくてはならないところを直そうと努力している。(問2で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人のみ) ・そう思う *人 ・どちらかといえばそう思う *人 ・どちらかといえばそう思わない *人 ・そう思わない *人
4	友達の良いところを見付けることができますか。 ・できる *人 ・どちらかといえばできる *人 ・できない *人

本学級の児童は、アンケートの結果や、普段から「ありがとう」が言える児童が多いことから、友達のよいところを見付け、そのよさを伝えることができる。しかし、自分自身についてはじっくり振り返る経験が少ないため、短所は思い付くが、よい所を見出すことができない児童が多かった。また、短所や気になる所をそのままにしてしまい、直さないでいたり、自分ではどうしたらいいのか分からなかったりする児童もいることがアンケートから分かった。そこで、自分の特徴について考えてみるとともに、自分の短所を見つめ直し、長所は伸ばしていこうとする心情を育てていきたい。

(3) 教材について

本教材は、小さい頃から短所を隠して過ごしてきた春風亭昇太さんの体験談である。あるきっかけから、落語研究部に入って、短所を直し、逆にそれを生かしていこうとする様子が描かれている。また、「それじゃ、ダメじゃん」という言葉に込められた昇太さんの思いを考えていく。

(4) 主題に迫るための指導にあたって

事前の指導では、特別活動において、友達から「こんないい所があるよメッセージ」をもらい、自分では気付いていなかったよさを新たに知ったり、再認識したりすることで、自分の長所を自覚したり、認めたりする機会を作りたい。また、他教科でも、互いの作品を鑑賞して良さを伝えたり、体育で頑張っている友達のよさを認め合ったりすることで、「頑張る自分」のよさを自覚させる。

展開では、昇太さんの、「それじゃ、ダメじゃん」という言葉にはどんな思いがあるのか、ワークシートに書かせ、グループで交流させる。なぜ、短所をそのままにしていたらダメなのか、一人一人に考えさせたい。展開後段では、自分の「それじゃ、ダメじゃん」を「〇〇〇に変えてみよう！いいじゃん！」にするため、友達と相談したり、全体で交流したりして、自分や友達の短所をよい方向へ導いていくアイデアを出し合う。

4 指導計画

	関連する学習活動と内容
事前	○学級活動「秘密の友達」で『①自分のいいところ/短所を探す』『②友達のいいところ』カードを友達からもらうことで、自分では気付いていなかったよさを新たに知る機会をつくる。 ○学級活動 「友達のいいところ」探しの時間に、本時に向けて事前アンケートを行う。 ○各教科 がんばりやよさを認め合う。(例：体育科「水泳」)
本時	○道徳 教材「それじゃ、ダメじゃん」を読んで話し合う。
事後	○図画工作「芸術作品展」作品を交流しながら鑑賞し合う。 ○修学旅行でのグループ作りで互いを尊重した集団形成を行う。 ○学級活動 セルフエスティームを育てる心の学習を行う。

5 本時の指導

(1) ねらい

「それじゃ、ダメじゃん」という言葉に込められた昇太さんの思いを考えることを通して、短所の見方を変えてみたり、直していこうとしたりする心情を高める。

(2) 準備・資料 春風亭昇太さんの写真(拡大したもの)、春風亭昇太さんの落語の動画、ワークシート

(3) 考えを広げ深める授業を展開するための工夫点

- ・事前の学級活動の学習を踏まえて本時の学習課題を提示する。本時の学習課題が、展開後段において、児童一人一人の個性の伸長につながっていることに気付かせる。
- ・展開後段で、自分の「それじゃ、ダメじゃん」を「いいじゃん」に変えるため、友達と相談したり、全体で交流したりして、それぞれの短所を見つめ直す時間を確保する。
- ・自分のこととして考えることができるように、児童一人一人に教師や友達からメッセージを送る。

(4) 展開 (☆考えを広げ深めるための授業の手立て、◎は中心発問、◇は個への配慮、⋯は評価)

時間	学習活動及び内容	指導上の留意点・手立て
8分	1 自分の長所と短所を振り返る。 2 春風亭昇太さんの落語の映像を見る。	☆事前に学級活動で出した「長所・短所」カードの振り返りを行う。 ・電子黒板を活用し、春風亭昇太さんの落語の映像を流して教材の効果を高める。
20分	3 教材「それじゃ、ダメじゃん」を読んで話し合う。 (1)教材文の初めから「ちっともうまくなかったんだ。」までを読み、昇太さんの短所を確認する。 ・人見知りで、おしゃべりなところ。 (2)教材文の続きを読み、昇太さんは、自分の短所をどのようにしていこうとしたか、話し合う。 ○中学生の頃、昇太さんはどのような気持ちから短所を隠そうとしたのでしょうか。 ・恥ずかしい ・自信がない ・苦手なことはやりたくない ○なぜ落語研究部に入ろうと思ったのでしょうか。 ・このままではいけないと思ったから。 ・部活に入って自信がついたから。 ・前に進みたいと思ったから。 ◎「それじゃ、ダメじゃん」という言葉にはどんなメッセージが込められているのだろうか。 ・短所は、努力すれば長所にもなる。 ・自信をもって挑戦しよう。	◇聞き取りが苦手な児童のために、拡大写真や場面図を提示しながら教材を読み、児童をより深く教材に引き込む。 ・発問は短冊で提示することで、考える時間を確保する。 ・短所から逃げたくなる昇太さんの気持ちに共感させ、自分でも同じ思いをしたことがないか振り返らせる。 ・まず個人で考えさせ、その後グループで話し合うことで、多様な考え方に触れ合えるようにする。 ・「人見知り・おしゃべり」という短所があるにも関わらず、なぜあえて落語研究部に入部したのか問いかける。 ・「楽な道ではなかった」のに、どうしてここまで頑張れたのかを考えさせる。 ・「それじゃ、ダメじゃん」の後に続く言葉をワークシートに箇条書きで書く。 ・昇太さんの思いを考えることを通して、短所の見方を変えてみたり、短所を克服しようしたりする気持ちを高めさせる。
12分	4 これまでの自分を振り返り、自分の短所をどのようにしていったらよいか考える。 ○自分の「それじゃ、ダメじゃん」を「いいじゃん！」に変えて表現しよう。 ・算数が苦手だからいつも後回し。だけど、これからは嫌なことから先にやる！いいじゃん！ ・声大きいことは、応援団やみんなに指示するときに役に立つ！いいじゃん！（ただ、授業中も同じ声の大きさだと迷惑がかかるな。） ・どうしたらいいのか分からない。	☆自分の「ダメじゃん」(短所)な所を、「いいじゃん」に変えるために、どうしたらよいか、自分で考えたり友達と相談したりする。考えたことをワークシートに記入する。 ◇短所が生きる場面とそうでない場面を考えさせ、短所も使い方次第では長所になることを確認する。 ・日常の体験を想起する問いかけを行う。 ◇短所をどのように変えたらよいか分からない児童には、ペアやグループと交流し、アドバイスをもらおう。 ⋯自分の特徴を知って、短所の見方を変えてみたり、直そうとしたりする心情が高まっている。 (ワークシート・観察・発表)
5分	5 教師からのメッセージを読む。	☆児童の短所や直したいところに対して、一人一人に教師から励ましのメッセージを送る。 ・今までの自分、これからの自分と照らし合わせ、短所を改め、長所を伸ばそうとする気持ちを高める。

5 実践化への手立て

- ・帰りの会で、自分自身の生活や態度等の振り返りを行う。
- ・エンカウンターを継続的に行い、「自分が有能であるという実感」や「自分には価値があるという実感」をもたせる。
- ・様々な活動でのグループ作りや、修学旅行での集団形成の指導に生かす。